

# 奥州市議会全員協議会 会議録

【日 時】 令和6年6月20日（木） 15:00～15:56

【場 所】 7階 委員会室

【出席議員】 (28名)

菅原由和 加藤清 佐藤美雪 宍戸直美 菅野至 門脇芳裕 佐藤正典 高橋善行  
佐々木友美子 東隆司 小野優 及川春樹 高橋晋 千葉和彦 小野寺満 高橋浩  
千葉康弘 瀬川貞清 千葉敦 廣野富男 及川佐 飯坂一也 阿部加代子 中西秀俊  
菅原明 小野寺重 藤田慶則 今野裕文

【欠席議員】 なし

【出席者】 倉成市長 小野副市長

二階堂政策企画部長 浦川総務部長 千葉協働まちづくり部長

菊地未来羅針盤課長 千葉地域づくり推進課長

伊藤未来羅針盤課副主幹

鈴木議会事務局長 菊池議会事務局次長 佐藤議会事務局副主幹

## 【次 第】

1 開 会

2 挨 拶

3 協 議

(1) 説明事項

旧伊手小学校活用による小さな拠点づくりについて

(2) 協議事項

議会基本条例の検証作業について

(3) 報告事項

① 岩手県競馬組合議会定例会(5/30) 報告者：東 隆司 議員

② 奥州金ヶ崎行政事務組合議会臨時会(6/3) 報告者：千葉康弘 議員

4 その他

5 閉 会

## 【概 要】

1 開会 (略)

2 挨拶

○議長（菅原由和君） 先ほどの本会議では、少しタイミングが難しく、休憩を取らず大変申し訳ございませんでした。議事進行にご協力いただきましたことに感謝申し上げます。

引き続き全員協議会もどうぞよろしくお願い申し上げます。それでは倉成市長からごあいさつをいただきます。

○市長（倉成淳君） ここ数日間の一般質問とあと本日の議案審議どうもお疲れ様でした。

今日は市が進める施策の中の3本柱のうちのまちづくりに関係する小さな拠点づくりのモデル地区の進め方についての話になりますので、いろいろと協議をお願いしたいと思います。

3 協議

(1) 説明事項

## 旧伊手小学校活用による小さな拠点づくりについて

○議長（菅原由和君） 3の協議に入ります。

説明事項、「旧伊手小学校活用による小さな拠点づくり」について説明をいただきます。  
千葉協働まちづくり部長。

○協働まちづくり部長（千葉達也君） 私の方から小さな拠点づくりプロジェクトの進捗状況についてご報告を申し上げます。現在、小さな拠点づくりプロジェクトは、衣川地域生活圏のモデルと、江刺の伊手地区生活圏の2つのモデルを進めているところでございます。今般、伊手のモデル事業につきまして、地元組織とのモデル事業実施協定締結、そして具体的な建物の改修の実施設計等に入る等の内容が固まって参りましたので、進捗状況をご報告させていただきます。それぞれ担当課長よりご説明申し上げます。

○議長（菅原由和君） 菊地未来羅針盤課長。

○未来羅針盤課長（菊地徳行君） 本題に入る前に、私の方から改めて議員の皆様には小さな拠点づくりプロジェクトのねらいというか目的について簡単にご説明させていただきます。

資料2ページ目をご覧ください。資料上段のねらいという欄に、地域住民の合意形成のもと住民が主体となって、事業者、市と連携、役割分担した日常生活に必要な機能、サービスの集約による地域資源を生かした持続可能な生活圏の維持とあります。これをもっと簡単に言えば、住民みずから自分たちの住む地域をよくしていこう、そのために自分たちができることやしていこうと、そういう取組を市が支援していくというものです。ただ、具体的にどんなことができるのかとか、どんなふうに進めていけばいいのかというとなかなか見えづらいところもあると思います。市としては、先駆的な取組を進めている地区をモデル地区として選定し、そこで得られた成果、知見を横展開していきたいと考えています。これまで、衣川・伊手をモデル地区に指定しましたけれども、実はこの2つのモデル地区にそれぞれ特徴があります。例えば、衣川地区は、衣川、衣里、北股、南股の4つの振興会のエリアを範囲としており、例えば遠隔医療であったり、見守りとか、どのエリア、どの地域においても共通するような課題である生活サービス等の取組をモデル的に実施して参りました。

一方、伊手地区は、いわゆる単一の振興会単位でのエリアとなります。こちらは空き校舎を活用したまに伊手の地域資源を生かした地域づくりの取組となっております。市としてはこれらの小さな拠点づくりを市内全域に広げていきたいと考えておりますけれども、奥州市は非常に広い市でありまして地域特性も様々でございまして。よって衣川のような少し広いブロードタイプというかちょっと広いタイプ、伊手のようなスポットタイプというかそういったようなものをうまく組み合わせながらそれぞれの地域特性に沿った取組を支援して参りたいと考えています。私からは以上です。

○議長（菅原由和君） 千葉地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（千葉康行君） それでは私の方から伊手小学校活用に係る小さな拠点づくりの方をご説明させていただきます。

1ページの方になります。概要は、未来羅針盤図の小さな拠点づくりプロジェクトに位置付けられているということで先ほど菊地課長から説明があったとおりですが、その流れの中で今動き始めたという状況です。

2番、これまでの主な経過を説明させていただきます。まず発端は、令和4年6月に伊手地区振興会の方で農村RMO事業を導入して、小学校の跡地利活用の検討チームが立ち上がったというところでありました。ただ、そのあと9月に伊手地区センターが、土砂災害が発生する恐れがある箇所該当するということが県の発表で判明したところから、市で地区センターのあり方も検討した上で地区振興会の説明とか、振興会からの要望をいただいた上で、活用の方を検討した流れとなっております。

令和5年3月に伊手小学校は閉校になりましたが、そのあと9月に小学校の利活用基本構想が伊手地区の方から市の方に提出されております。

年が明けまして、令和6年3月に伊手地区を小さな拠点づくりモデル地区に指定しまして、今年度5月、伊手農村農業活性化協議会・伊手振興会を相手方に、小さな拠点づくりモデル事業の

実施協定を締結しております。今月に入りまして地区センターと伊手地区、新しい地区センターと伊手地区活用施設の複合整備の実施設設計業務を開始するという状況になってございます。

3番の施設利活用についてです。校舎1階部分と体育館については、地区センターの移転先となります。2階部分を地域活動の拠点施設に改修して、地元団体に貸与します。地区活用部分の設計にあたっては、地域の意見を聞きながらこれから詳細なところを詰めていく予定となっております。地域からの利活用の検討案としましては、昨年出されました基本構想から拾ってきたところですが、まず、農業体験、食育など青少年体験プログラムの構築、それから農産物の開発等による生業の創出。それからブックカフェ、ものづくり工房等による地域交流の促進、キャンプ、野外イベントなど、自然を活用した交流人口の増などを見込んでございます。

4番その他です。この施設改修工事は、デジタル田園都市国家構想交付金、地方創生拠点整備タイプを申請予定で、こちら補助率2分の1となっております。残りは、過疎債を充当予定となっております。あと伊手地区では、旧小学校利活用の地域運営組織を立ち上げ予定となっております。地域運営組織設立によって、モデル事業実施協定の相手方の地位等を承継していただくこととなっております。今後の主なスケジュールは下の方に表でまとめてございますが、実施設設計にこれから入りまして、秋口には令和7年度の予算要求、そして年末ぐらいにデジ田の交付申請を行った後、令和7年度から改修工事に入り、令和8年4月1日供用開始という予定であります。以上です。

○議長（菅原由和君） 説明は以上でございます。ご質問等がございましたら、ご発言をお願いいたします。よろしいでしょうか。

18番、廣野富男議員。

○18番（廣野富男君） 18番廣野富男です。まず初めにちょっと気になったので、2ページの右下、企業・団体との連携、地域資源ってありまして、郷土芸能、鹿踊りと獅子躍りの2つ掲載しています。一般的には鹿踊り1本だけでいいと思います。これは団体の固有名詞に当てたときにこういう分類はしますけど、一般的に出すときは鹿踊りで1本で表示した方がいいと思います。お願いします。

それで、1ページに戻ります。この施設利活用で、1階は地区センター機能、2階は地域活動の拠点施設ということで、そうしますとこれは今後旧校舎を利活用するときの前例になると思いますか、事例になると思うんですけど、例えば、地域で使う場合はこのように手厚い支援を受けながら地域の活動拠点として使わせてもらえるかと理解してよろしいですか。これですと地元負担は1つもかからないってことですよね。公民館・地区センターですから、指定管理か何かで光熱水費などは公費で面倒見てもらおうし、上の部分は光熱費はかかるのかな。ただ、利用料は、市の方から請求されないという理解でよろしいですか。

○議長（菅原由和君） 千葉地域づくり推進課長。

○地域づくり推進課長（千葉康行君） 1階部分は地区センターなので指定管理となりますけれども、2階部分は基本的には生業を起こしてもらおうよう、要はそこで稼ぎができるということでこちらの方で改修をするというものになります。なので、基本的には賃料等を取ってやるべきものであると考えておりますし、光熱水費についても当然自分たちのその儲けの中で払っていただくものとは考えております。ただ、スタートアップの段階でちょっとどこまで市が応援するかというところについては、今協議しているところでございます。以上です。

○議長（菅原由和君） 廣野富男議員。

○18番（廣野富男君） 何となくイメージ的にはわかります。ただ貸与ですから管理運営についてはRMOの伊手振興会さんが運営母体になると思いますけど、その利用料の設定等々については、地元さんにお任せすると。ですから、生業にしたとしても、その生業の状況によっては、ある団体は料金が安いとかタダになるとかっているのを、そういう権限は運営組織にお任せするというそういうイメージでちょっといたんですが、それとは違いますか。

○議長（菅原由和君） 菊地未来羅針盤課長。

○未来羅針盤課長（菊地徳行君） 利用料というか使い方のご質問かと思いますが、まず基本的に2階部分は普通財産ということになります。なので、一般的に言えば、条例等で定められ

ておりますけれども、資産価値の5%というようなことにはなるんだろうと思います。ただ、先ほど課長が答弁しましたように、やっぱり我々そこがちゃんと動くように支援していかなくやいけないと思っておりますので、そういう規定とはまた別にやはり新たな規則というか、そういうものを定めながら別な料金的体系というか、それを何年にするかとかっていったところについては、これから協議必要だと思っておりますけれども、そういったものも新たに作って支援して参りたいと思っております。それで貸し付けた中で、貸し付けた後に民間さんの方で伊手のいわゆる新しい法人組織の方で、また新たな例えば団体さんに貸し出すとかっていったところについては、これはまたその団体様の方で、いろんな料金体系があるのかなと思うので、とにかく今の時点ではまずその伊手の方でどういうことをやるかといったところを詰めておりますので、どのような事業をやるかというようなことに合わせて我々の支援というものがまた少し変わってくるのかなと思っております。いずれ持続可能な形になるようにしっかり協議しながら進めていきたいと考えています。

○議長（菅原由和君） 19番及川佐議員。

○19番（及川佐君） 今日の提案は要するに活用の大筋を紹介してくれたちゅうか話してくれたわけですね。これから伊手の方では具体的な計画を作っていくわけですね。ということは、我々としてはこれについて、地域がつくるのであれば、とにかく数字がないっていうか何ですか。コメントを挟みようがないわけですけども。これRMOっていう今後発展させるって意味でまた、議会、いろんな人たちの意見を聞くという意味でのチャンスはあるんですか。あるいは、伊手の地域でほとんどこれは計画を立てて進めるといふふうにするっていう意味で、ただ今日出ただけっていうか、そのへんの普遍性の問題と今日たまたま出たかからですけど、個人的にいろいろ計画に盛ってほしいとかあるけれども、それは今日は言う場じゃないと思っておりますので、今日は大筋の先例といいますか、RMOの先例っていう意味で出してくれたとこういう理解してよろしいんでしょうか。

○議長（菅原由和君） 千葉協働まちづくり部長。

○協働まちづくり部長（千葉達也君） 基本的には進捗状況・状況報告でございます。先ほど申しましたとおり今回、こういう事業をなかなか今までやってございませんが、1つの小学校を目的の違う活用、複合施設という形になりますので、公の施設である地区センターの部分については、全協等で今後もご説明する場面があるかと思っておりますし、あと、普通財産の部分は、まさに伊手の組織の方で、RMOの事業3年目、最終年度でございますけれども、今後今年度に、事業計画、その事業に伴う経営計画、いわゆる長いビジョンを持った収支も含めて、生業になり得るかなどの経営計画を、RMOのアドバイザー等の意見を参考にしながら計画を作っていくと。そのやる事業等が決まってくると、その建物にどういう機能があって、事業を展開したいという部分で、伊手の地元の方々とも、建物の実施設計は一緒にやっていくというような流れになっていきますので、伊手地区がやる事業に、ああだこうだっていう部分はなかなかない、まさに伊手地区自身がみずからどのような事業をやっていくかということを最終的に今年度中に確定させるというような状況になっておりますということでのご報告となります。以上です。

○議長（菅原由和君） よろしいでしょうか。

22番、阿部加代子議員。

○22番（阿部加代子君） 22番阿部です。他の閉校した学校の活用方法についても、今地元と話し合っているという段階でよろしいんでしょうか。

○議長（菅原由和君） 二階堂政策企画部長。

○政策企画部長（二階堂純君） 今ご説明しておるとおり、伊手についてはその空き校舎活用して、地域がみずから生業を作って自主的にというところのモデルとして動いております。実はこれに関しては、他の地区からも校舎を活用してって話を、伊手でやるのであれば若干伺っておりますが、前提がやはりしっかりした計画を立ててみずからという計画をきっちりやるということで伊手モデルにしましたので、まずはこの伊手で実際どういうふうな課題があるのか、そこも含めての検証、そういったところも含めたモデルという位置付けでございますので、伊手でこれがどう動くか、これ次第で様々地域の方も我々もとなるのか、違う方向でとなるのかそう

いった本当に見本になろうかというというふうに捉えています。

○議長（菅原由和君） 阿部加代子議員。

○22番（阿部加代子君） 22番阿部です。そうしますと、一定のこのモデルをどこかで奥州市全体に発表する場といいますか、何かそういう場を設けるということでしょうか。

○議長（菅原由和君） 千葉協働まちづくり部長。

○協働まちづくり部長（千葉達也君） 今回の一般質問でも若干関係のご質問いただいたところですが、既にこの先進的な伊手の取組については、昨年度の30地区の振興会の会議の中で、事例発表で状況を共有させていただいておりますし、今後こういう展開は振興会だけではなくて、地元企業さんとか、民間の方も今こういう部分に興味を持っていまして、今週、民間の事業者さんが伊手の方に視察に行って何か協力できないかっていうような意見交換もございましたので、多くの方々に今のこの小さな拠点づくりの取組を発表したり、意見交換するような場面は持ちたいと思っております。ただ、具体的に伊手の方で、経営計画、事業計画を確定しないとはっきりできない部分もありますので、そういう部分は詰めましたら多くの方に情報共有し、さらなるいろんなアイデア知恵もいただくような工夫はして参りたいと考えてございます。以上です。

○議長（菅原由和君） 10番及川春樹議員。

○10番（及川春樹君） 10番及川です。先ほど協働まちづくり部長のお話がありましたとおりにわゆるうまくいけば横展開、拡張性ができると言って、多分思った以上に大変慎重に進めない。せっかくのプロジェクトも途中空中分解するような可能性もちょっと危惧するところあるんですけども。主に振興会からの何かしら提案っていうところであるとは思うんですけども、私は地元でも、やっぱり振興会に若い人たちが出てこないっていうのが大きい問題で、市長なんかもよく若い人たちの活力をうまく生かしたってあるんですけども、どうしても振興会組織ですといわゆる高齢の方々が主体的にやっていて、若い人たちがどっちかっていうと引っ張り出されるような環境でやっている場合があるかと思うんですけども、例えば市、私、地元の振興会では、やっぱりある程度若い人たちには、予算であったり、権限とか、自分たちで自発的にできるような何かしら計画性を持ってつくってほしいなって話がたびたび出ていまして、非常にこの計画を、もっと飛躍的に進めるためには、もう少し若い人たちを自発的・自律的に引っ張ってくるような、振興会を働きかけといえいいんでしょうか、その地域の中でも私たちがもうちょっと発言力を上げられるような、そういった後押しっていうのを行政の方でもう少しされた方がいいような気がします。何か、お考えあればお聞きしたいと思います。

○議長（菅原由和君） 千葉協働まちづくり部長。

○協働まちづくり部長（千葉達也君） まさにただいまの部分がいわゆる事業を実施していく受け皿づくりこれが非常に重要だということで、地元振興会さんがそのコミュニティ計画を検討してやろうと言ったときに、やっぱり素人だけではこれなかなか難しいということで、農村RMO事業3カ年の事業、これをみずから申請し採択して、他の自治体で同じような地域づくり、生業づくりをやっているアドバイザーを入れながら、構想段階からそういう取組をしていると。さらには、振興会だけではとてもできないので、すでに地元の伊手で農業経営している40代の若手の方にも入っていただいて、すでに経営の経験がある若者にも入ってもらって、一緒になって、それぞれ例えばその農業経営ができる人はもっとうまくこの地域のために事業を回すし、仕組みは、例えばお手伝いとか、それ以外のことで何できるかというような考えをしながら今度新たな法人を作っていこうということを今検討してございます。ですから、振興会で単独でできない部分を、いろんな若い力新しい力を入れて、この事業をやっていこうという今頑張ってるやっていますから、そこは市としても、応援していきたいというふうに思っております。

○議長（菅原由和君） よろしいでしょうか。

特にそれではないようですので説明事項は以上といたします。

説明者退席のため、暫時休憩いたします。

## (2) 協議事項（以下略）